

各地域の特性に合わせたエネルギー利用モデルを考える

地域におけるエネルギーのベストミックスとは？

背景

○北海道内には、太陽光や風力等の自然エネルギーや、燃料として活用可能な廃棄物等が豊富にあります。現在はそれらを十分に有効活用できていません。

○道内の各地域でそれらのエネルギーを効果的に活用するためには、各地域の実情に応じたベストミックスを実現するエネルギー利用モデルが必要です。

概要

さがす（地域で発見する）

- 再生可能エネルギー等の資源量・利用可能量の推定手法の開発
- エネルギー需要量の推定手法の開発

つくる・ためる・つかう

- 分散型エネルギーの供給システムおよび利活用技術の開発
 - エネルギー資源化、高効率利活用技術開発
 - 各種施設の省エネルギー化技術開発

○エネルギー分散型利用を支援する統合型GIS（地理情報システム）の開発

しめす（試行・実践）

○分散型エネルギー需給モデルの構築

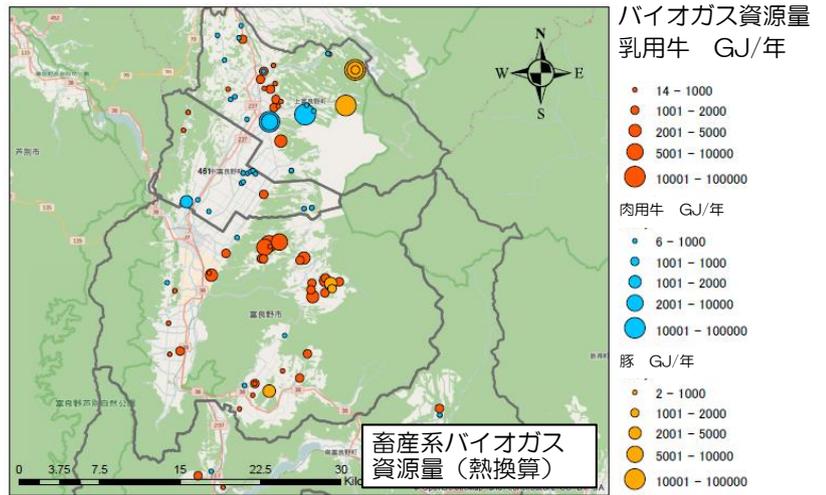
- モデル地域や施設において実行可能性調査を実施
- エネルギーの需給バランスを考慮した利用モデルを提案

富良野圏域、美唄市、足寄町、南茅部・釧路町ほか

成果

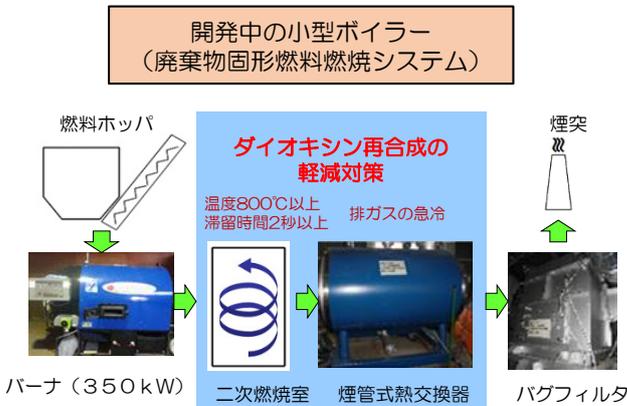
1 （さがす）再生可能エネルギー資源量の推計

富良野圏域におけるふん尿発生位置の調査から、バイオガス資源量を推計し“みえる化”を行いました。



2 （つくる）地域で利用可能なエネルギー利用技術の開発

地域から発生するゴミを燃料とする小型で環境に優しい（ダイオキシンの発生が少ない）ボイラーを開発しています。



期待される効果

- 自治体による地域エネルギービジョンの策定と実現
- 企業等の地域エネルギー産業への活用
- 地域における新たな産業創生と雇用創出

3 （しめす）モデル地域におけるエネルギー利用モデル

現状の地域のエネルギー収支を基にして、いくつかのエネルギー利用モデルを想定した一次エネルギーの収支を試算しました。

